計測結果等報告書

２０１９（令和１）年５月３０日

主任弁護人　西　嶋　勝　彦　殿

[redacted]

私は、[redacted]と申します。釈放された袴田さんと話をさせて頂いたり、外出する時に見守りの同行をさせて頂いています。

私は、確定判決で「右肩の傷」と表現されている傷が今でもはっきりと袴田さんの体に残っていることがずっと気になっていました。そして、「この傷は、本当に５点の衣類の白半袖シャツやネズミ色スポーツシャツの損傷と合致するのだろうか。」と疑問を持ちました。

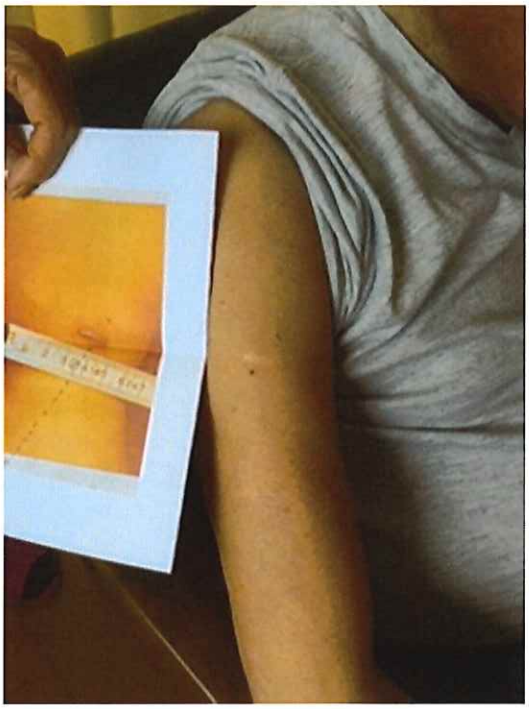
袴田さんは、現在、拘禁症のため、裁判についてご自身の主張や考えを表現できる状況にはありません。しかし、静岡地裁が袴田さんを釈放してくれたことにより、「右肩の傷」の存在が直接確認できるようになりました。袴田さんが何も言えなくても、この傷が袴田さんと事件の関係を客観的に証明してくれるのではないかと考え、傷と衣類の損傷の位置関係等について測定及び検証を行いました。

その結果を別紙の通り報告します。

別紙

1　釈放された袴田さんの右上腕に残っていた傷と白半袖シャツの右肩の２つの血痕に関する写真の確認

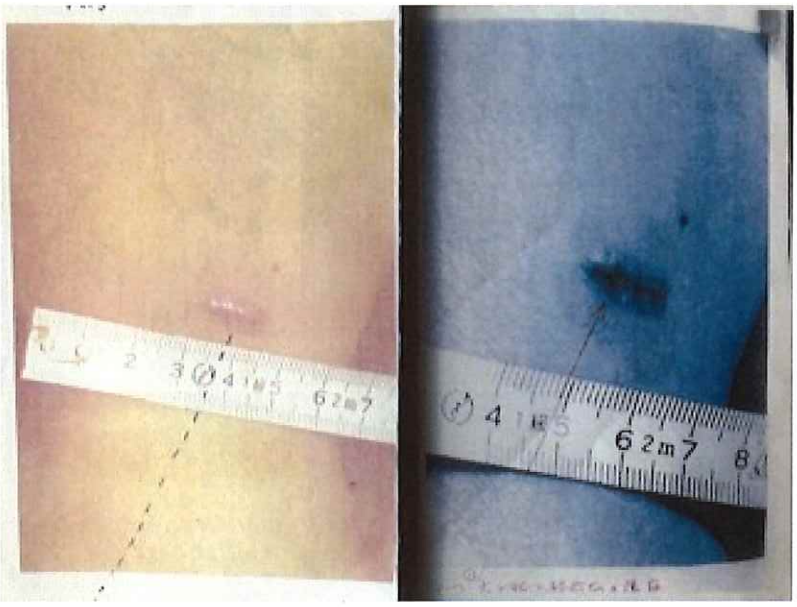
袴田さんの傷



2016 年 4 月 16 日撮影

白半袖シャツの右肩の２つの血痕

開示されたカラー写真

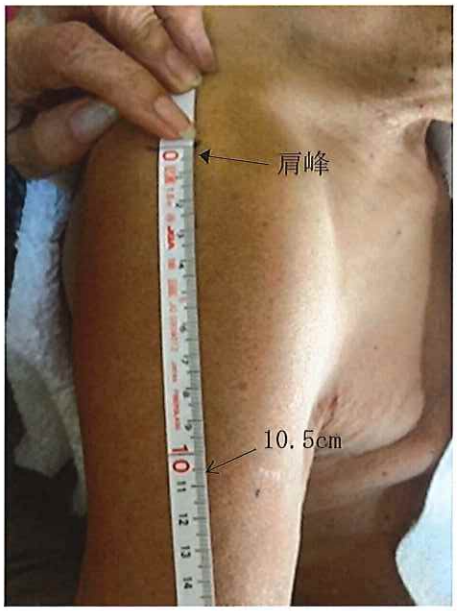


（右上腕上部前面の傷痕）
自白後（昭和 41 年 9 月 8 日）の鑑定書・身体検査調書の写真

2　袴田さんの傷の位置の測定

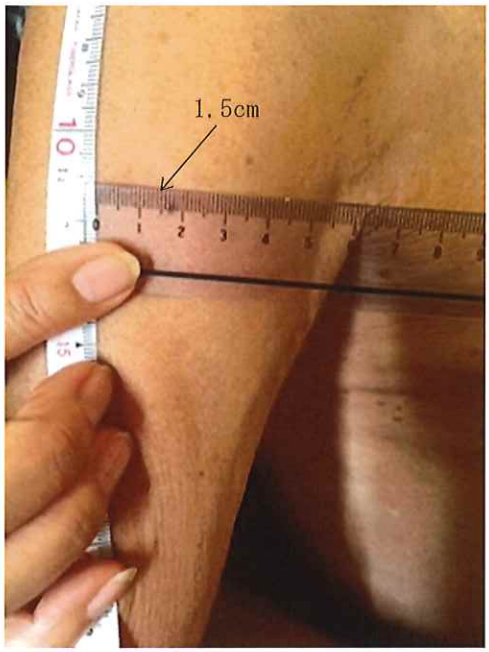
右肩峰より、10.5㎝末梢へ、そこから前へ1.5㎝の位置に、傷の外側部分があり、そこから内側に横に走る1.5㎝の傷が残っている。内側の方がやや斜め下になっている。

2018年12月19日撮影

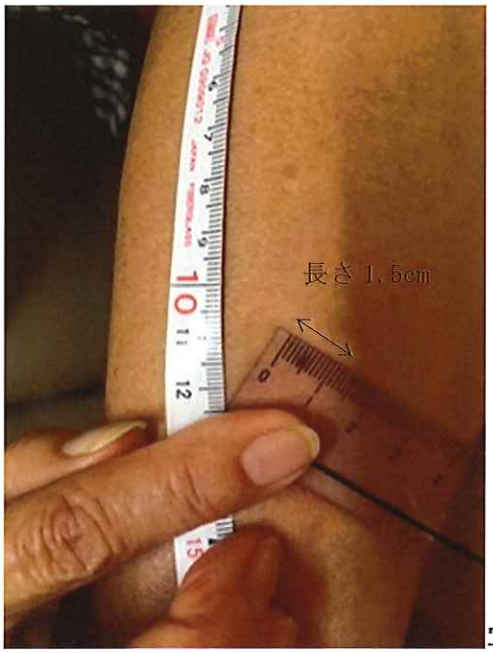


写真②1

右肩峰より下方に1.5㎝



写真②2　前方へ1.5㎝



写真②3

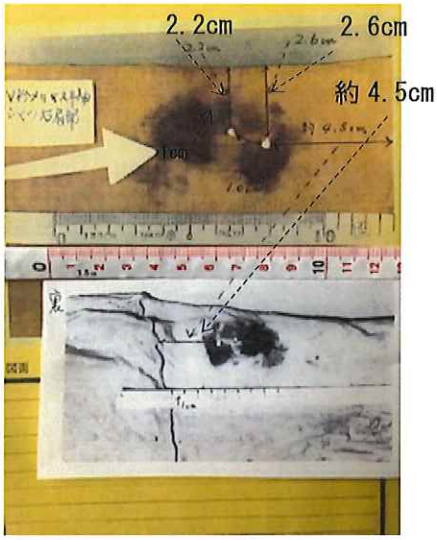
内側がやや斜め下に1.5㎝の横に走る傷痕

日焼けにより、傷痕は薄くなっているが、肉眼でははっきり確認できる。

3　白半袖シャツの損傷とネズミ色スポーツシャツの損傷の位置の確認

(1) 証拠開示されたカラー写真の損傷位置を基に、用意した下着と上着に損傷のしるしを付けた。

白半袖シャツの２つの損傷



写真③1

ネズミ色スポーツシャツの損傷

写真③2

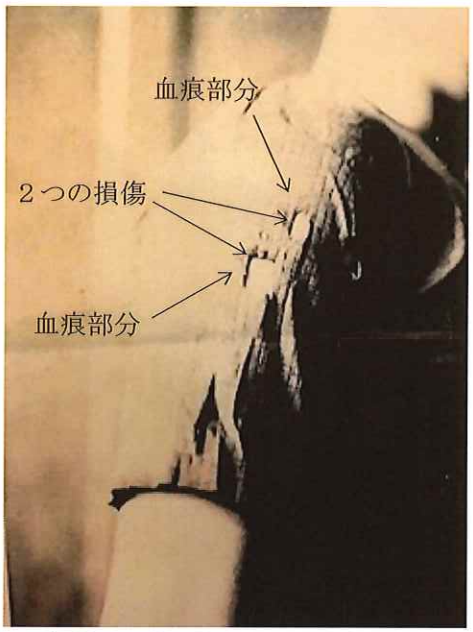
写真③3

写真③4

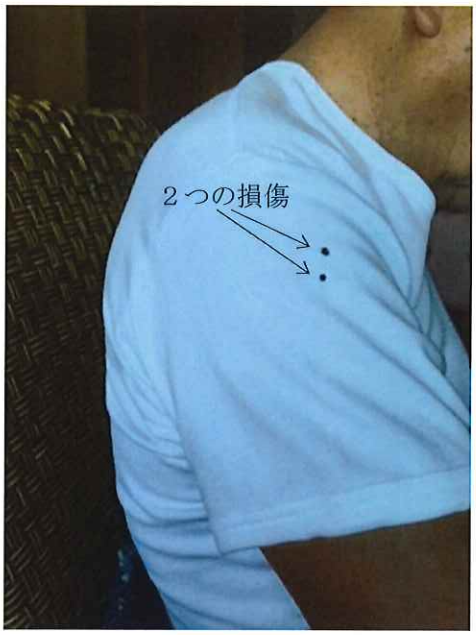
白半袖シャツの損傷は
左側の損傷は上から２.２cmに2.5cmの丸い穴
右側の損傷は上から2.6cmに３mmの丸い穴
２つの間は１cm離れている。
袖付け位置と右損傷の間は4.5cm

ネズミ色スポーツシャツの損傷は
カラー写真より上から３cm
第１審判決イラストより、
袖付け位置から３cmとした。

(2)　2個の損傷のしるしをつけた下着を着用し、傷に相応する位置に赤いしるしをつけた。シャツを着用した時の肩の線は昭和46年11月20日上田誠吉撮影写真を参考にした。



写真③5　弁護人上田誠吉撮影写真



写真③6　シャツを着用

写真③7

写真③8

傷の上に両面テープを貼り自然に相応する位置を上から押さえ固定した。

写真③9

傷の位置に赤マジックで印をつけた。
赤マジックの下に傷がある。

(3)　ねずみ色スポーツシャツを着用時の、上着の損傷と下着の損傷と傷の位置にしるしをつけた。

白半袖シャツの損傷と傷の位置の上に、木片を置いて留め、上着を着用した上から、これらの位置がわかるようにした。

写真③10，11，12　　2つの損傷と傷の上に木片を置き、ガムテープで留めた。

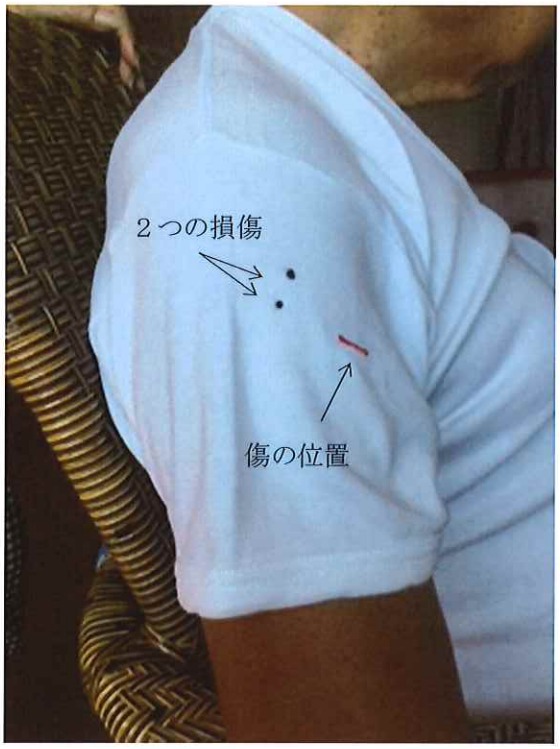
写真③13

弁護人上田誠吉撮影写真

写真③14

白マジックは、ネズミ色スポーツシャツの損傷
白半袖シャツの2個の損傷の位置は黒マジック
傷の位置は赤マジックでしるしを付けた。

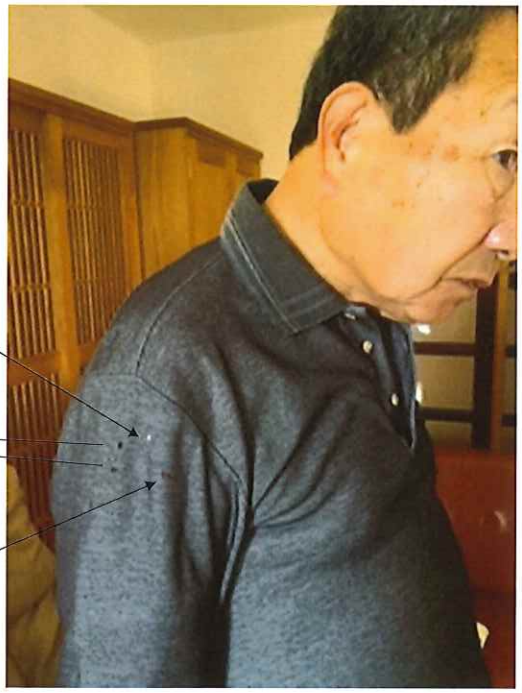
4　白半袖シャツの２つの損傷と袴田さんの１つの傷　まとめ写真



写真④1

ネズミ色スポーツシャツの１個の損傷と白半袖シャツの２個の損傷と１つの傷

写真④2



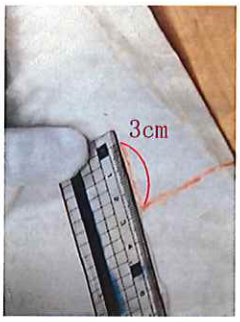
5　白半袖シャツに2か所の穴ができるという想定について

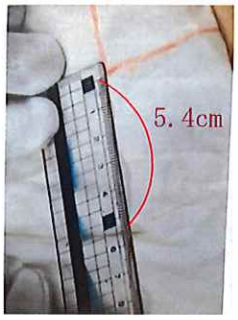
白半袖シャツの片方の損傷（入り口）を通って、もう片方の損傷（出口）に刃物が抜けても、右肩の傷とは位置も向きも長さも合わない。

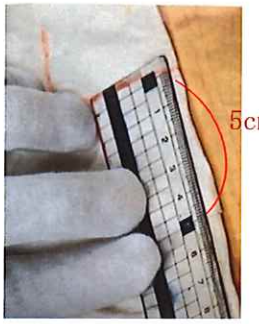
写真⑤1，2　シャツの損傷の間は1㎝、傷は1.5㎝　位置も向きも違う

6　袴田さんの傷とパジャマのカギ裂きの損傷の比較

(1)　2018年11月に弁護団が、裁判所に保管されていた5点の衣類を確認して撮影したパジャマのカギ裂き（パジャマは押収後、すぐにカギ裂き部分の血液鑑定が行われた為、下のように別の布でカギ裂きが残されていた）





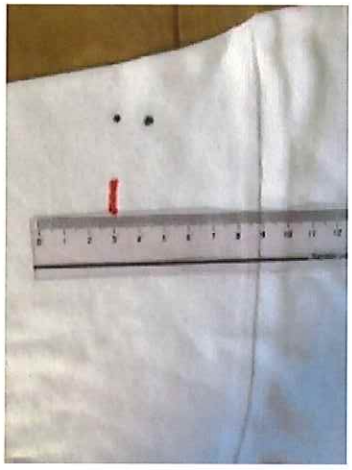


写真⑥1，2，3，4

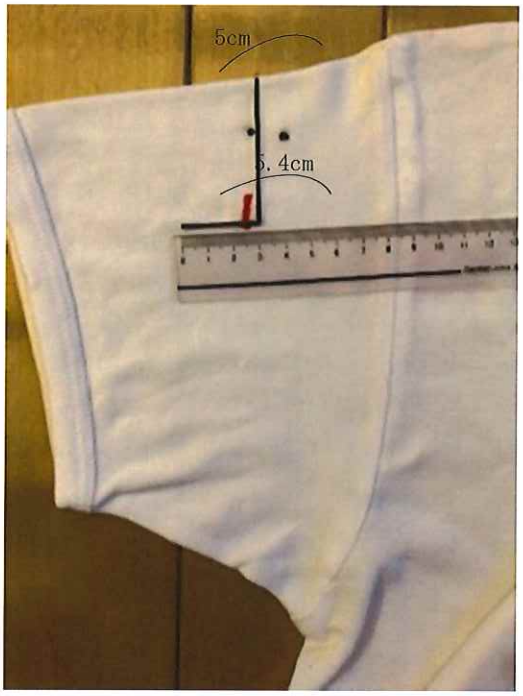
カギ裂きは(3×5.5㎝)

右上腕の傷の内側の端は、上から5.5㎝、袖付け位置から5.8㎝

(2)　パジャマのカギ裂きの損傷をシャツに重ねる。



写真⑥5,6　右上腕の傷の内側の端は、上から5.5㎝、袖付け位置から5.8㎝

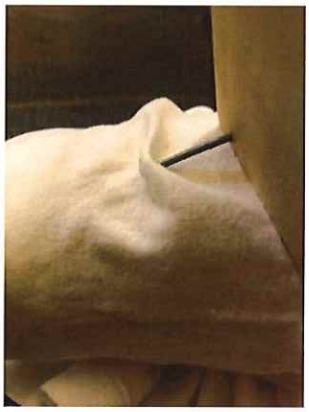


写真⑥7　パジャマのカギ裂きの損傷の起点と、袴田さんの傷の内側の端は相応している。このカギ裂きの損傷によってできた傷は、内側から外側に向かってできた傷である。

7　白半袖シャツに穴をあけてみる。

右上腕の傷は、釘のようなものでできたとも自白させられているため、板に釘を刺し、釘が刺さって、シャツに穴が開くかを調べた。

ネズミ色スポーツシャツの損傷が１個、白半袖シャツの損傷が２個であるのは、上着はゆったりしていて、下着は皮膚に密着しているためと説明されているが、釘のようなものによって、ゆったりした上着の上から、伸縮性のある下着を通って、上着１個、下着２個、計３個の穴を１度の作用で生じさせることはできなかった。釘で押されて、生地が伸びるからである。



写真⑦1，2，3（穴はあかなかった）

白半袖シャツの損傷は、丸い穴（2.5 ㎜、3 ㎜）であるが、鋭利な刃物では、丸い穴は開かない

写真⑦4

クリ小刀を縦５㎜巾まで差し込んだ

写真⑦5

損傷は丸くならない

写真⑦6

白半袖シャツの損傷は丸い穴